

国際社会学部

東城 文柄

Tojo Bumpei

現代世界論コース／南アジア（バングラデシュ）

地域研究、地理情報システム学、環境保全論



バングラデシュのサラソウジュ林景観

地域研究とGIS（地理情報システム学）

専門は特にベンガル語圏の地域研究で、農山村を研究対象として、「環境変化」をキーワードに土地利用・土地被覆変化に関するフィールドワーク主体の研究を行ってきました。一般にGISは地理空間データの収集、管理、解析、可視化に焦点を当てた学問で、地理学や環境科学、情報学などの自然科学系分野では幅広く活用されているものの、人文社会科学系分野やフィールド研究者のツールとしては活用が不十分です。しかしながら、フィールドワークに重点を置いた地域研究とGISの相乗効果により、地理現象と社会問題がより深く理解できるようになります。GISの力を活用してフィールドデータを統合および分析することで、地域研究者は地域の複雑さについての貴重な洞察を得ることができます。

研究紹介

バングラデシュ・ベンガル語圏の地域研究、特にGIS（地理学）を活用した土地利用・土地被覆変化研究、森林減少などの環境問題研究、GISと統計モデリング解析を駆使した情報科学的な研究などを主に行ってきました。

バングラデシュにおいて、長期のフィールドワークをベースとして森林保全政策と地域住民の対立をテーマに博士号（地域研究）を取得。生業や土地利用システム変化に関する地域研究からスタートし、途上国の環境問題（森林保全）と地域性の関係をテーマに、地理情報システム（GIS）を活用した地理学的なアプローチで、南アジアから東南アジアを主に対象として様々な国・地域を対象に研究を行ってきました。最近では森林環境問題研究以外にも、公衆衛生（バクテリア感染症）や自然災害（洪水、森林火災）研究などの分野にも枠を広げ、「地域、人間の活動、環境の間の相互作用についてのより深い理解に貢献する地域研究」を目指して日夜研究に取り組んでいます。

【主要な海外フィールドと研究テーマ】



担当授業

- 環境保全論概論A,B
- 環境保全論演習A,B
- ベンガル地域基礎1,2
- ベンガル語購読Ⅱ-3,10
- 分析道具としてのデータサイエンス

関連する分野

- 地域研究（特にベンガル語圏）
- 地理情報システム学（GIS）
- 環境保全論
- 情報科学（統計学）

出版物

- 『発展途上国における「地域住民による森林破壊」問題の再考--バングラデシュ・モドゥプール丘陵の事例研究』
- 『発展途上国における二次林保全への住民参加の重要性--バングラデシュ・モドゥプール森林における焼畑林業の事例に学ぶ』
- 『Recent incidence of human malaria caused by plasmodium knowlesi in the villages in Kudat peninsula, Sabah, Malaysia: Mapping of the infection risk using remote sensing data』

国際社会学部

環境保全論ゼミ



ドローンを用いた空撮によるオイルパーム林と廃天然林のモザイク景観（マレーシア・サバ州）
熱帯林の消失は気候変動を加速させているのみでなく、生物多様性喪失の要因であり、新興感染症の流行リスクも高めている

どのようなゼミか

環境破壊の抑止、社会的不公正、持続可能性やレジリエンス、公衆衛生上問題の改善など、ひとたび途上国の現場に出ていき、地域で生活する人々の目線で地域を捉えようとするときに直面するのは、これらの相互に複雑に絡み合ったローカル/グローバルな課題群です。そこでは環境問題を、現場経済や社会の問題と「統合」して捉える複眼的視野が重要になります。こうした環境保全論のテーマに即した具体的な地域研究を視野に入れて、このゼミでは特に地域調査と地域分析（GIS）に関する手法を習得します。

本ゼミは地域研究を基盤に、特に地域の環境問題に焦点を当てた研究に興味のある方に適しています。実際のフィールドワークを通じた環境問題に関するデータ収集や、GISや環境データを活用した問題の分析など、調査や分析の結果をもとに地域の問題や環境問題を広い視野で考察することを重視しています。ゼミ内での発表や討論の機会を通じて、問題解決に向けた分析や議論の方法や具体的なアプローチについても学ぶことができます。

ゼミでは、アンケートやインタビュー、フィールドワーク、地理情報システム（GIS）の活用、地球観測衛星データの活用、統計プログラミング言語を用いたデータ分析、などの研究方法を学びます。ゼミの概論や演習、卒業論文演習を通じて、これらの方法を習得していきます。

「環境保全論」とは、政治学や社会学的な環境政策研究とは異なり、地域の自然や社会的文脈に特有な環境保全対策や政策に関する議論を重視しています（先述の政策的・普遍的な問題や議論も考慮します）。本ゼミでは、このような研究を志向し、地域の環境保全に貢献できるような研究を個々が追求できるようになることを目指しています。

【在ゼミ生（2023年度）の卒論構想テーマ一覧】

- アフリカの乾燥地域における緑化政策についてーグレート・グリーン・ウォールを事例にー
- オーストラリアの森林火災がBudj・bim文化的景観の生態系に及ぼした影響と保全の今後の展望
- スワッチバーラト（きれいなインド）プロジェクトの実情
- 日本における観光資源（エコ・ツーリズム）の事例研究
- 日本における捕鯨

卒論

- 人口および地理的な観点からのバングラデシュにおける電化率の地域差の考察（2022年度卒）
- アフターコロナの働き方とオフィスの価値変容に関する考察～社会人への質的調査とオフィス街夜間光データ分析結果を通して～（2022年度卒）

おススメの本

- 『地域調査ことはじめーあるく・みる・かくー』
- 『自然環境解析のためのリモートセンシング・GISハンドブック』
- 『混合研究法の基礎-社会・行動科学の量的・質的アプローチの統合』
- 『景観生態学-生態学からの新しい景観理論とその応用』
- 『統計学：Rを用いた入門書』